

人間社会環境研究科 人文学専攻

【授与する学位】 修士（文学）

| 大学（大学院）の目的 ※学則、大学院学則から引用   |
|--|
| <p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p> |

| 学類（研究科）の教育研究上の目的 ※学類規則、研究科規則から引用   |
|--|
| <p>人間社会環境研究科は、人間社会環境における諸問題に関して高度な教育研究を行い、この領域における国際水準の教育研究拠点として、現代的課題に対応できる独創性豊かな知的人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士前期課程は、博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門的実務能力を備えた高度専門職業人並びに深い知識と学際的な興味を持って企業・自治体、地域社会等に貢献する人材を養成することを目的とする。</p> <p>人文学専攻は、人文学科領域において博士後期課程の基礎となる専門的な教育研究を行い、独創性豊かな大学教員及び研究者を目指す者を育成するとともに、専門的実務能力を備えた高度専門職業人を養成することを目的とする。</p> |

| ディプロマ・ポリシー（DP）   | カリキュラム・ポリシー（CP）  | アドミッション・ポリシー（AP）   |
|--|--|--|
| <b>【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</b>   | <b>【教育課程編成に関する基本的考え方】</b>  | <b>【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</b>  |
| <p>人文学専攻は、人間科学、歴史学・文化資源学、言語・文学、公認心理師養成、デジタル人文の各領域の専門知識を深め、領域を横断した複眼的視野を持ち、新しい問題の発見と解決の能力を備え、専門的研究を進めることのできる人材を養成する。そうした人材養成のために、本専攻では、所定の単位要件を満たし、かつ修士論文（デジタル人文コースの場合はリサーチペーパーも可）の審査又は博士論文研究基礎力審査に合格した者で、人間行動、歴史学、文学、言語を対象とした人文学の諸領域に関して専門的研究を進め、当該領域に関する専門的知識と技術、人文学全般を見通した見識を身につけた者に修士（文学）を授与する。</p>   | <p>人文学専攻は、人間科学、歴史学・文化資源学、言語・文学、公認心理師養成、デジタル人文の5コースを置き、コース内の専門を深める17プログラム、専門を横断する4プログラム、公認心理師養成プログラム、及びデータサイバナー・エキスパート養成プログラム（人文学）を提供する。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、どのプログラムにおいても、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた教育課程を編成し、ナンバリングを用いてその体系性や構造を明示する。専門基礎科目の履修によって基礎的学力を確保し、専門応用科目の履修によって問題解決能力を高めて、大学院GS基盤科目、研究科共通科目、専攻共通科目、他専攻開講科目を通じて研究の視野を広げ、研究者や専門的職業人、公認心理師としての社会的要請に応えられる人材の養成を目指している。</p>  | <p>人文学専攻は、「人間」「社会」「環境」という多分野横断的な領域で活躍できる創造性豊かな人材の養成をめざしている。したがって、それぞれの学問分野における高い専門的能力を有するだけでなく、それを基礎として幅広い視点から先端的な研究をさらに進めようとする学生を求めている。</p>   |
| <b>【学生が身に付けるべき資質・能力】</b> （※「学生が何ができるようになるか」を分かりやすく具体的に記載（シラバスの学修目標のような記載の仕方に心掛ける））   | <b>【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</b>   | <b>【求める人材】</b>   |
| <p>（1）課題探究力と創造性、柔軟性<br/>人間行動、歴史学、文学、言語を対象とした人文学の諸領域に関して、専門的研究を進め、幅広い視点から“人間”に関する様々な問題に創造的かつ柔軟に取り組むことができる。</p> <p>（2）高度な専門知識と社会的応用性<br/>当該領域に関する専門的知識と技術、人文学全般を見通した見識を身につけるとともに、それを応用して地域社会や国際社会における多様な課題の具体的解決に取り組むことができる。</p> <p>（3）情報収集・分析と論理的思考力、自己表現力<br/>文献、資料、史料、量的・質的データを含む多様な情報を適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理的思考力、文章作成や口頭発表の能力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。</p> <p>（4）他者理解と外国語運用能力<br/>異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する深い理解と共感力を有しており、外国語を用いて他者とも円滑に意思の疎通を図ることができる。</p> | <p>1. 教育内容</p> <p>（1）課題探究力と創造性、柔軟性<br/>人間行動、社会現象、言語、歴史等に関する探求を通して、幅広い視野から“人間”に関する様々な問題に創造的かつ柔軟に取り組むことができる能力を涵養するため、大学院GS基盤科目、他専攻開講科目、副専攻を設ける。</p> <p>（2）高度な専門知識と社会的応用性<br/>各プログラムの専門的な学問内容と固有の研究方法を理解・修得し、それを地域社会や国際社会における多様な課題の解決に応用する能力を身につけるため、専門基礎科目、専門応用科目、専門発展科目、研究科共通科目、専攻共通科目、インターンシップを提供する。</p> <p>（3）情報収集・分析と論理的思考力、自己表現力<br/>多様な情報を主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理的思考力や文章作成や口頭発表の能力に基づいて、専門性の異なる他者にも自己を説得的かつ的確に表現することができる人材を育成するため、専門基礎科目、専門応用科目を開講するとともに、研究カンファレンスでの研究発表を義務づける。</p> <p>（4）他者理解と外国語運用能力<br/>他者の多様な価値観や見解に対して理解と共感力を有し、外国語を用いて他者とも円滑に意思の疎通を図ることができる人材を育成するために、専門基礎科目、専門応用科目、専門発展科目、研究科共通科目を開講するとともに、英語検定試験を受験する制度を設け、E-learning等による英語学修支援を行う。</p> <p>2. 教育方法<br/>教育課程においては、各科目の目的及び学修目標に応じ、講義・演習・実習等の様々な方法・形態により授業を実施する。大学院GS基盤科目、研究科共通科目、専攻共通科目、専門基礎科目、専門応用科目、専門発展科目、他専攻開講科目の7つの区分から所定の単位数を修得することで学生の視野を広げ、研究カンファレンスや英語検定試験、インターンシップの参加等によって学生が主体的・能動的に学び、人材育成の目的及び学位授与の方針に相応しい能力を身につけることができるよう工夫している。</p> | <p>人文学専攻は、人間科学、歴史学・文化資源学、言語・文学、公認心理師養成、デジタル人文に関する特定領域又は横断的新領域について、基礎知識と基礎学力を有し、新しい問題の発見と解決に必要な思考力・判断力・表現力等を持ち、主体的に周囲と協働して学ぶ学生を求める。また社会の諸課題に向き合い、今日の研究技術を学ぶことで課題解決に挑戦する意欲をもち、そのための基礎的学力を備える学生を求める。</p> <p>研究者を目指す学生だけでなく、様々な分野での専門的職業人を目指す学生、留学生や社会人を積極的に受け入れる。</p>   |
| <b>【学修成果の評価】</b>   | <b>【選抜の基本方針】</b>   | <b>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</b>   |
| <p>（1）カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、修得単位数、英語検定試験の得点等から、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を総合的に測定・評価する。学修成果の評価は、各科目の目的及び学修目標を踏まえ、科目毎にシラバスに示す評価方法・基準により、学期末試験、レポート、演習の発表点等から判定する。</p> <p>（2）修士論文の評価は口頭試問によって行い、博士論文研究基礎力審査(QE)は筆記試験及び口頭試問によって行う。</p>   | <p>さまざまな経歴・志向を持った学生を受け入れるために、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、学内推薦特別選抜、海外在住者を対象とした遠隔特別選抜と、多様な選抜方法を実施する。入学者には、（1）基礎知識と基礎学力、（2）新しい問題の発見と解決に必要な思考力・判断力・表現力等、（3）主体的かつ周囲と協働して学ぶ積極性、が求められる。入学者選抜試験では、記述試験（筆記試験）で主に（1）と（2）を、口述試験で主に（2）と（3）を、また、記述試験（筆記試験）の専門科目の中で外国語文献の読解能力（一部のプログラムを除く）を評価する。</p>   | <p>入学を志す学生は、志望する専攻プログラム（専門分野）において学ぶ専門的知識の理解に必要な当該分野の基礎知識、および専門的研究を進めるために必要な基礎的技術を身につけていることが求められる。一般にそれは、志望する研究分野に関する学士課程レベルの専門知識、関連知識、研究技術である。公認心理師養成プログラムに入学する学生は、公認心理師法第1条の2に定める大学における公認心理師となるために必要な科目を履修し、その単位を修得済（見込み含む）であることを前提とする。データサイバナー・エキスパート養成プログラム（人文学）に入学する学生は、統計及び調査の基礎知識を修めていることが望まれる。このため、統計調査士資格、又は社会調査士の資格認定科目を履修して社会調査士（キャンディデイト）を取得済であることが前提となる。</p> |